

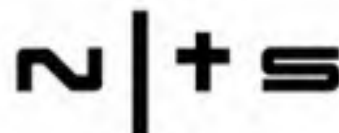
資料集

NITS戦略

～新たな学びへ～

令和4年7月

一部改定 令和5年12月



独立行政法人教職員支援機構

NITS戦略（ミッション） ～新たな学びへ～



NITS戦略（取組） ～新たな学びへ～

■ 戦略 1 新たな研修像の創出

- 研修デザインの三角形
- 対面
- リアルタイム・オンライン
- ✓ 研修全体の「質」の向上 ✓ 「探究型」研修の開発 ✓ 研修のベストミックス
- 「受ける研修」から「求める研修」へ
- 自己との関わりを意識して課題の本質に向き合う
- オンデマンド

研修観の 転換

■ 戦略 2 全国との「新たな学び」の共創

- マネプロ
【全国・NITS】
- ✓ 研修マネジメント力の協働開発
- ✓ 「共通言語」の提案・共有
- 研修の分類
- ✓ プラットフォームを通じた
全国の学びの支援
- 研修履歴
との連動
- 研修デザインの三角形
- 入門編、
教職員研修編

■ 戦略 3 社会に開かれたNITS

- 民間との
コラボ
- ✓ 学校外の者との協働
- ✓ 「社会に開かれた教育課程」
へのサポート
- ✓ 「新たな学び」の情報発信
- 教員資格認定試験
の拡充
- HP・SNSの充実

育成計画、メンター

対話の促進
PLC

風通しの良い
職場風土

■ 戦略 4 NITSの人材育成・組織づくり ✓ NITSを担う人材の育成 ✓ 多様な人材が働きやすい組織づくり

NITS「次世代型教職員研修開発センター」について（令和5年4月設置）

変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶ教職員の育成



NITSは、中教審の提言を踏まえて、教職員の新たな学びを模索していきます。

本審議まとめの重要なメッセージの一つは、学びに専念する時間を確保した一人一人の教師が、自らの専門職性を高めていく営みであると自覚しながら、誇りを持って主体的に研修に打ち込むことができるという姿の実現を目指していくということである。教師と任命権者・服務監督権者・学校管理職等との積極的な対話を踏まえながら、任命権者等が提供する学びの機会と、教師自らが主体的に求めていく多様な主体が提供する学びとが相まって、**変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶ教師**が育っていく。

また、教師の学びの内容の多様性と、**自らの日々の経験や他者から学ぶといった「現場の経験」も含む学びのスタイルの多様性**を重視するということも重要なメッセージである。この観点からも、教師の個別最適な学びの実現のみならず、協働的な学びを実現していくことが必要である。今後、教師の資質能力の向上を広く図っていく観点からも、知識伝達型の学習コンテンツの充実はもとより、校内研修や授業研究といった日々の営みを磨き上げていくこと、教職大学院における学びなど、職務から離れて、大学教員や同級生とディスカッションしながら、課題を探究していく機会も同時に確保していくことが構想されていかなければならない。教師の**個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、児童生徒の学びのみならず、教師の学びにもまた求められている命題**であるといえる。

中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会

「『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて（審議まとめ）」

（令和3年11月15日）

「自ら問いを立て、実践の振り返りや対話、知識の習得を重ねながら、実践を展開することで、自他の価値観を捉え直し、新たな問いや実践に向かう」持続的な探究プロセスを提供し、このプロセスを通して、課題を探究する力や、探究的な学びをデザインし、マネジメントする力といった、教師にとって中核的（コア）に求められている力を高めることを目的

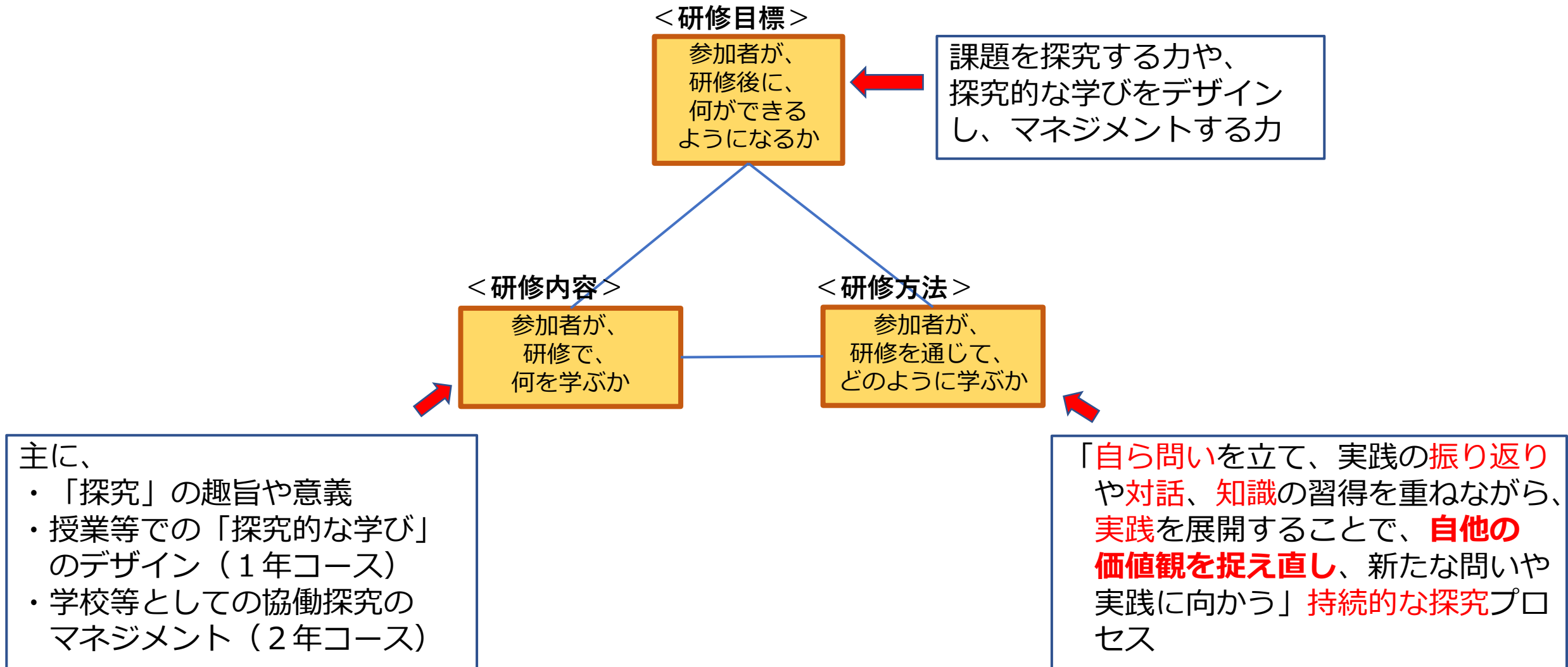
1年コース：「探究的な学び」をテーマとして、各受講者が問いを設定し探究を行う。

（集合：①R5.7/31-8/2 オンライン：②R5.11/16, ③R6.2/21）

2年コース：1つの学校より、**管理職＋中堅教員のペア**で参加。「**自校の課題**」について問いを設定し、ペアで協働しながら探究を行う

（集合：①R5.10/10-10/12 オンライン：②R5.2/14, ③R6.6-7, ④R6.11-12）

【コア研修（探究展開型）】





コア研修（1年コース）の参加者からは、以下等の感想

「この研修に入る前は、自分自身は探究的な学習に取り組むことができている、きちんと理解していると自負していたが、ここで他の先生方と対話しているうちに、「探究的な学習」の型はできていて、分かっているかもしれないが、本来の目的について理解できていなかったなと猛省した。」

「探究活動は、今回の研修でやってみて無謀にも思えたし、講義を受けている方が何倍も楽だと思った。けれど自分の考えを言葉にすることがこんなに頭を使うことで、受け入れてもらったときこんなに嬉しくて自分の中に落ちていくってこういう感覚なんだなと感じた。（略）この感覚を子どもたちに味わってもらうためにはどうしたらいいのだろうかと思う。」

「教員をチームにするためには、対話をしないといけない。これだけ話をしてようやく価値観・信念が出てくる。学校改革時には、多くの対立が出てくる。視座を上げ、（俯瞰してみることで、）学校の先生たちとたくさん対話・話をしていきたいと思った。」



これまでのNITS中央研修での主な感想

- ・〇〇を教えてもらい、ありがとうございました。
- ・講師の〇〇という言葉が、大変印象に残りました。
- ・〇〇が勉強になりました。現場で使ってみたいと思います。

教育行政リーダー研修

多様な教育課題がある中、各教育委員会には、既存の思考に囚われることなく、優先的な課題を設定するとともに、学校に対して効果的な指導や支援（「働きかけ」）を行うことを通じて、教育行政を前に進めることが求められている。

この研修は、教育委員会幹部職員等に求められる、課題を設定する力や、学校の内発的な改善を促す力を高めることを目標。

また、全国の教育委員会幹部職員等が、協議や宿泊を通して交流し、将来に続くネットワークを構築することも主要な研修目標の一つ。

✓参加者は、主に、都道府県・市町村教委の課長級・次長級を想定

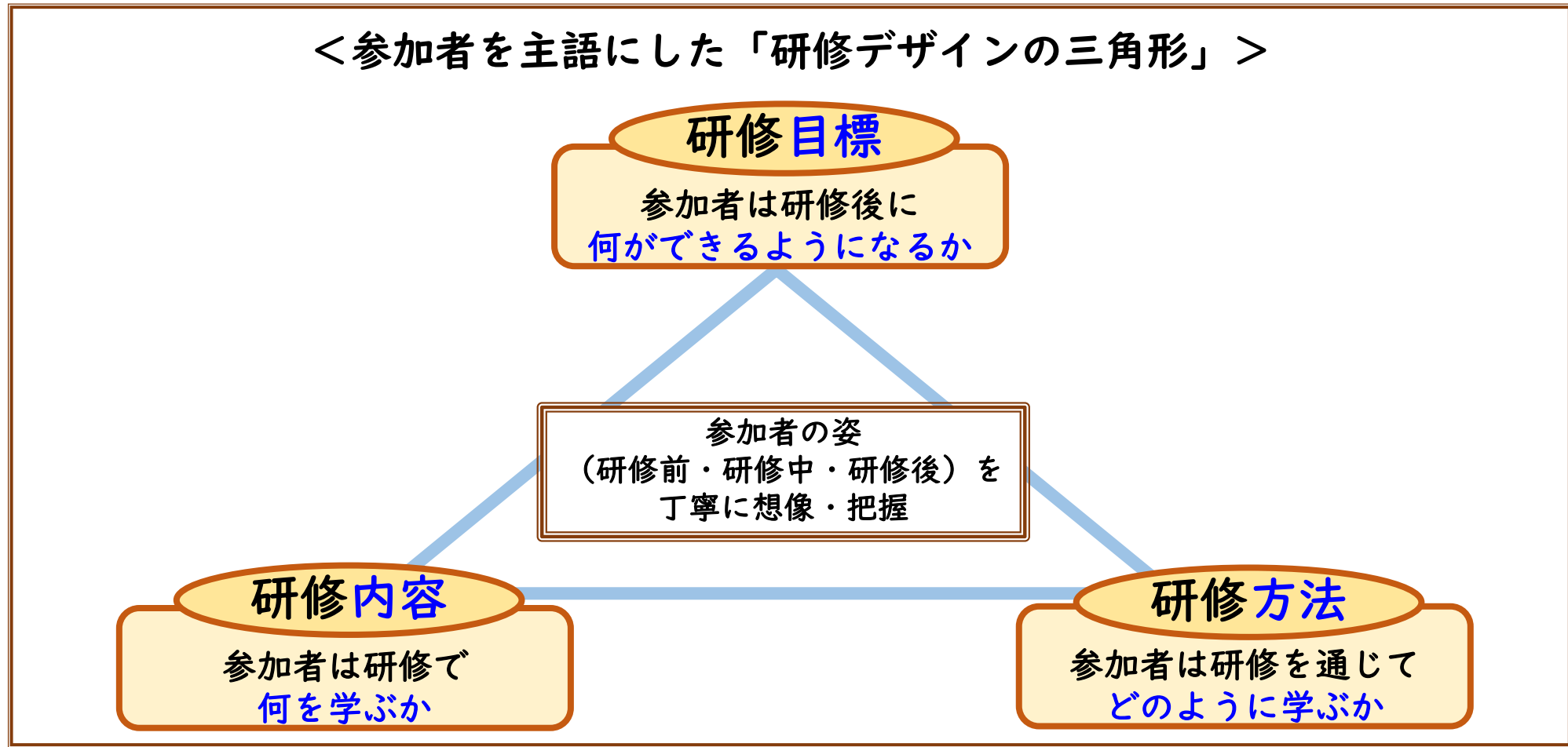
（※教育長や主任指導主事などの参加も歓迎）

✓多彩な講師陣、多様な学び方（対話、リフレクション、事例検討、ケーススタディ、読解・・・）を用意

（集合：R5.8/7-8/10 オンライン：R6.1/26）

■ 「研修デザインの三角形」

= 「研修目標」、「研修内容」、「研修方法」の3つの観点から研修を捉え、改善サイクルを回す考え方



これまでは、次年度の「研修内容」をどうするか、その内容に応じどの講師に依頼するかという議論に、ほぼ終始

職階別の中央研修に、「問いを立て、省察する循環」を導入

【資料⑤】

<5日間の流れ>

月	火	水	木	金				
8:45~9:15 受付	イントロダクション							
9:15~9:25 研修 ガイダンス	講義・演習・協議							
休憩								
令和答申を受けて、 自らの課題の明確化								
休憩								
講義・演習・協議				講義・ 演習・ 協議				
				学校改善 計画の 策定				
				14:45~15:00 閉講式				
休憩	休憩	休憩	休憩					
リフレクション								

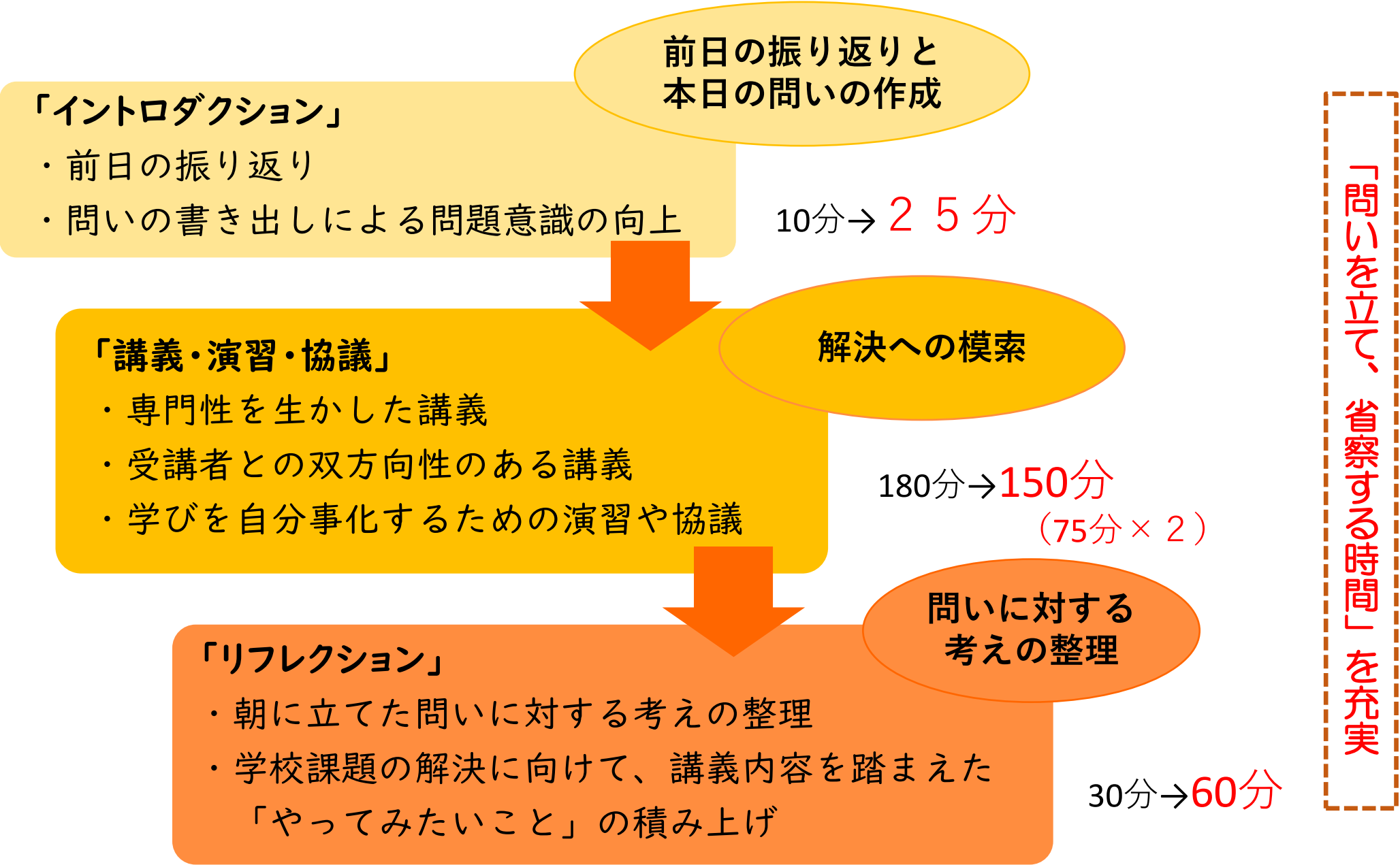
NEW

インターバル型
【6日目・オンライン】
※第1回のみ



<1日の流れ> (赤字は令和5年度)

火
8:45~9:10 イントロダクション
9:15~12:00 講義・演習・協議 学校組織マネジメント
12:00~13:00 昼休憩
13:00~15:45 講義・演習・協議 リスク・マネジメント
休憩
16:00~17:00 リフレクション



マネプロ

(研修マネジメント力育成プログラム)

- 令和5年度より、実施。
- 教育委員会から派遣された特別研修員をはじめ、機構に在籍する職員が、「研修観の転換」の実現に向けて考え、探究していくことを通じて、研修マネジメント力の育成を図る研修プログラム。
- 2週間に1回程度、2～3時間の対話の時間を確保。年間実施。

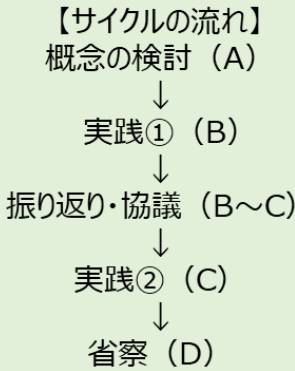


研修マネジメント力育成プログラムの概要

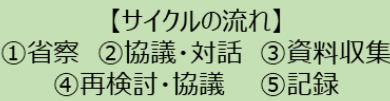
サイクルによる検討



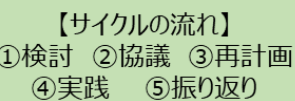
大サイクル【問い】
新たな教師研修とは？
研修観の転換はどう図るか？



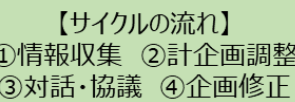
A：中サイクル【問い】
良い教師研修とは？



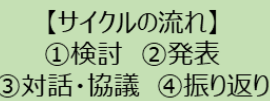
B：中サイクル【問い（課題）】
教師研修の実践



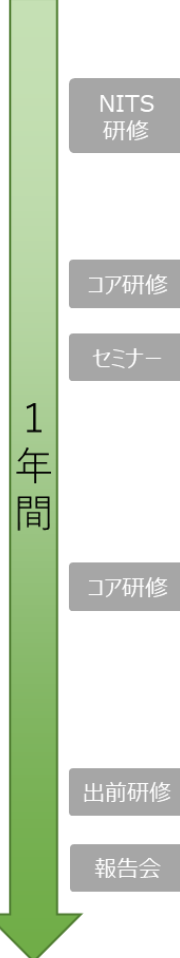
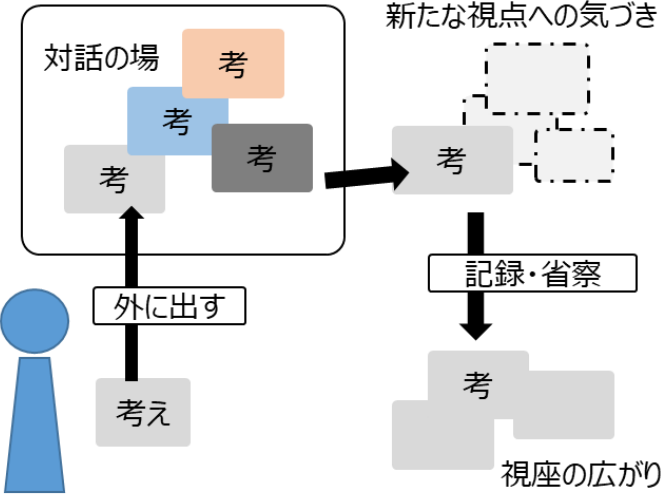
C：中サイクル【問い（課題）】
各所属における研修企画



D：中サイクル【問い】
「新たな教師研修」をどう語るか？



- ①自分にとっての教員研修とは？ どういう研修を行いたい？
- ②これから求められる教師研修とは？ NITSで求められる研修は？
- ③④「良い」教師研修とは？ 文献 事例 視察
- ③④探究とは？ 探究型研修とは？ ⑤各自の記録の共有
- ラウンドテーブルへの参加
- 以降、企画会議（A層）で今後のサイクルの展開を検討



この半年間のマネプロの展開

マネプロのテーマ

(4月から10月までに9回実施、毎回20名程度で、2～3時間の対話)

- ① 自己紹介・自身の経験・考えていること
- ② 平成28年・令和3年・4年答申、審議まとめの読み込み
- ③ ②を踏まえた「これから求められていく教職員研修」について
- ④ 「探究とは」についての自分なりの仮説づくり
- ⑤ 過去4回の活動の振り返り→「探究」について自分の考えを記録
- ⑥ リフレクションについて（熊平美香講師）
- ⑦ 「探究的な学び」、「探究的な教職員研修」とは
- ⑧ 「4月からこれまでの自身の考えの変化」について
- ⑨ 「研修デザインの三角形」、今年度・次年度の中央研修の在り方

・
・



独立行政法人教職員支援機構

NITS 校内研修シリーズ

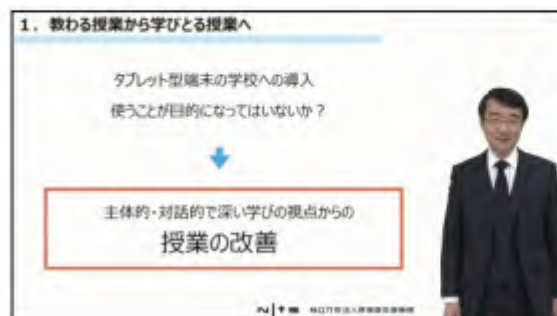
検索

全国の学校教育関係職員に豊富で質の高い研修機会を提供するため、いつでもどこでも研修が可能となるよう、「校内研修シリーズ」を始め、講義動画などの研修教材を提供しています。

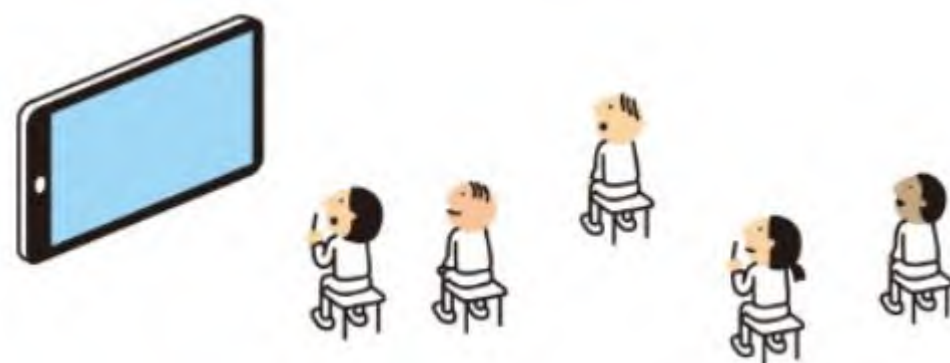
「校内研修シリーズ」では、これまでに、本編 130 本、新学習指導要領編 82 本の計 212 本を配信しています。

また、令和 3 年度より新たに立ち上げた「実践力向上シリーズ」では、学校教育関係職員が主に自己学習のために活用することを想定し、授業等で実践できる力を身に付けるための内容を、事例等を交えながら提示しています。

実践力向上シリーズ



実践力向上シリーズでは、
「ICT 活用」、「探究的な学習」、
「プログラミング教育」、
「ファシリテーション」など、
教育現場に求められている実践的な
内容の動画を制作しています。



<新着動画（令和3・4年度制作分）>

No1	授業における ICT 活用～ICT を活用した授業改善～	No9	オンライン学習の授業の進め方
No2	授業における ICT 活用～校内研修の改善～	No10	1 人 1 台端末の活用場面について
No3	プログラミング教育の具体的実践#1～私たちの生活とプログラミングの関係～	No11	1 人 1 台端末を活用した主体的な学びについて
No4	プログラミング教育の具体的実践#2～実際のプログラミングを通したプログラミング的思考～	No12	ファシリテーション総論
No5	プログラミング教育の具体的実践#3～授業実践事例にみるプログラミング教育の要点～	No13	ファシリテーション各論Ⅰ—会議・話し合いに活用するファシリテーション—
No6	プログラミング教育の具体的実践#4～実践からみるプログラミング教育の可能性～	No14	ファシリテーション各論Ⅱ—授業に活用するファシリテーション—
No7	「実践力向上シリーズ」のねらいと期待	No15	ファシリテーション各論Ⅲ—学校経営に活用するファシリテーション—
No8	「探究的な学習の過程」の方法論		

校内研修シリーズ

<新着動画（令和3・4年度制作分）>

No93	幼児教育の質の向上の重要性	No112	これからのへき地・複式・小規模校教育（下）
No94	「令和の日本型学校教育」の構築を目指して	No113	人権教育
No95	自殺予防	No114	生活安全
No96	不登校児童生徒の理解と保護者への支援	No115	学校における医療的ケアについて
No97	学校のビジョンと戦略	No116	学校安全（総論）
No98	特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育 ～特別支援学級における指導の在り方：理論編～	No117	学校における男女共同参画の推進～無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に気づき、変革につなげるために～
No99	特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育 ～特別支援学級における指導の在り方：実践編～	No118	子供を性犯罪・性暴力の加害者・被害者・傍観者にしないための「生命（いのち）の安全教育」について
No100	ハンセン病問題学習	No119	特別支援教育総論 学習のユニバーサルデザイン・段階的対応・合理的配慮
No101	学校の内外環境の分析と特色づくり	No120	カリキュラム・マネジメント
No102	学校ビジョンの理解と共有	No121	不登校児童生徒の対応について
No103	教職員が育つ学校づくり ～校内 OJT の考え方と進め方～	No122	特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援Ⅰ「特異な才能」の理解と捉え方
No104	1人1台端末の活用による情報活用能力の育成	No123	特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援Ⅱ 才能が輝く個別最適な学びと協働的な学び
No105	スクール・コンプライアンス（著作権）	No124	子どもを救い、チーム学校を形成するスクリーニング（理論編）
No106	ESD（持続可能な開発のための教育）	No125	学級・学年・学校支援につながるスクリーニング（実践編）
No107	主権者教育の推進① ～現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成～	No126	総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメント
No108	主権者教育の推進② ～指導上の政治的中立の確保等の留意点～	No127	よりよい授業づくりのための“新しい”教科書の使い方－小学校編－
No109	キャリア・パスポート	No128	学校全体で取り組む食育の進め方～学級活動（2）で進める食育の授業づくりを中心に～
No110	幼保小の接続について	No129	生徒指導Ⅰ『生徒指導提要』の改訂をふまえたこれからの生徒指導の方向性
No111	これからのへき地・複式・小規模校教育（上）	No130	生徒指導Ⅱ 学校・教職員に求められる生徒指導の進め方

校内研修で活用する例

研修の冒頭で視聴し、それをふまえた演習を行う流れが可能です。

20分



40分



演習



発表・まとめ

「オンライン講座、使っています」利用者の声より

初任研で使った。
自分自身に合う
テーマや内容を
選びやすい。

専門的な研修を
手軽にできるから
いいのでは？

具体的な対応例が
わかりやすかった。

コンパクトに
まとめられているのがよい。
そのまま校内研修で
活用できる。

日々の授業実践に
役立てることができた。

独立行政法人教職員支援機構 <http://www.nits.go.jp>

〈つくば本部〉 〒305-0802 茨城県つくば市立原3番地 029-879-6613

新たな教職員の学びに資する
オンデマンド動画の作成・活用の工夫
～第1次案～

令和5年3月

2 動画の作成・活用

オンデマンド動画の作成・活用上の工夫は、動画の撮影スタイルや撮影手法、編集手法といった各々の動画を作成する際の工夫と、作成された動画の組合せや対面研修との組合せ、成果確認といった動画の活用についての工夫の2つの観点で考えることができます。

それぞれの動画が質の高いものとなっていることが大切なのはもちろんですが、複数の性格が異なる動画を組み合わせることで多角的な学びを届けたり、対面研修との組合せを想定して動画作成を行ったりすることで、より効果的な研修とすることが考えられます。次のページ以降で、それぞれの工夫について参考事例とともに紹介します。

カテゴリ	検討すべき観点	工夫の例	記載ページ
Ⅰ. 動画の作成	撮影スタイル	事例型(授業等/ミニドラマ)	P.6,7
		対話型(インタビュー/掛け合い)	P.8,9
		講義型	P.10
	撮影手法	スタジオ設備	P.12
		360度カメラ	P.13
		VR	P.14
	編集手法	基本的な編集上の工夫	P.16,17
		サムネイルの工夫	P.18
Ⅱ. 動画の活用	動画の組合せ	事例型・対話型・講義型の組合せ	P.21,22
	対面(オンラインライブ)研修との組合せ	研修中での活用	P.24
		研修の前後での活用	P.25
	成果確認	動画内容に関する振り返り	P.27,28
		行動に関する振り返り	P.29

事例型(授業等)

概要

- 授業場面や学校の様子などを撮影した動画です。

ポイント

留意点

- 実際の授業場面等が題材に使われているため、視聴者が、自身が授業等を行う際のイメージが湧きやすくなります。
- 授業動画をそのまま流すだけでなく、テロップやナレーションで解説を加えることで、視聴者に注目ポイントを示すこともできます。
- 児童や生徒等、動画に映る可能性のある方の肖像権については、撮影前に説明し許諾を得る必要がある点に留意しましょう。

参考事例

実施主体

- 大分県教育委員会

動画名

- 大分県教育庁チャンネル

URL

- <https://www.youtube.com/channel/UCUgnOIPSzhqXLs2XcpwUH7g>

イメージ



◆ 知識・技能の習得や習熟・熟達を通じて、「課題解決力」を育成することを主に目指す研修

- ・ 特定の手法や考え方を、理解したり、実践に適用したり、使いこなしたりできるようになることを目指す。
- ・ 「〇〇の手法や考え方を知ったり、使ったりして、実践を改善してほしい」という狙いで研修を実施。
- ・ 実践を伴わない「習得志向研修」と、実践を伴う「習熟・熟達志向研修」がある。

◆ 「探究」を後押しすることを通じて、「探究に向かう力」を涵養することを主に目指す研修（「探究型研修」）

（※課題の探究には、課題解決のための知識・技能を必要とするため、「探究に向かう力」は「課題解決力」を包含）

- ・ 自らの視座、価値観、思いを捉え直したり発見したりすることで、実践を変革できるようになることを目指す。
- ・ 「自己の視座、価値観、思いとの関わりで『そもそも』から考えてみてほしい」という狙い（願い）のもと研修を実施。

※いずれの類型でも、オンデマンド動画などによる良質な知識の提供は重要

※類型が浸透すれば、校長は、教師の状況を踏まえ、類型に言及しながら研修の受講奨励を行うことができる
（プラットフォームでは類型の記載を可能とする予定）



これまでの教職員研修は、研修提供者側が、参加者に対し、自分が詳しい知識や技能についての習得や習熟を求める、1つ目のイメージであることが、ほとんどではないか